

## つき BON の「誤解をおそれず言わせてもらえば」

めざす会幹事 大津寄章三

### 愛あるところに神あり

来てうれし帰ってうれし孫台風という川柳がある。毎日のように近くに住む長女が子供を連れてやってくる。上は2歳4ヶ月の、下は生後80日の男の子である。

昨夕、帰るときに上の子が「遊んでくれて、ありがとう」と玄関先で頭を下げた。一同驚き、次に大拍手である。たかがそんなことなのだが何ともうれしい。子や孫の成長というのは人生の中でも最上階に位置する喜びの一つではないか。それなりの苦労の末に子育てを果たしてきた年月の先にある「ご褒美」のようにも思える。



トルストイに「愛あるところに神あり」という短編がある。

それはマルチンという年老いた靴職人の物語である。一人息子を失った悲しみから聖書を読み始めたマルチンは、ある冬の夜に祈りを終えてベッドに就こうとしたとき、「マルチン、明日窓から外を見よ。私に来る」という声を聞く。それは主イエス・キリストの声に違いない、と彼は思った。

マルチンは翌日早起きをして窓側に腰掛け、外ばかりを気にしながら仕事を始めた。窓の外ではその日にかぎって小さな事件が次々と起こるのだが、マルチンはいやな顔一つせず、そのたびに曲がりかけた腰を上げて雪かき人夫に熱い紅茶を勧めたり、乳飲み子を抱えた寡婦にパンやコートを与えたり、リンゴ泥棒の少年を救ってやったりする。

やがて暮れやすい冬の一日は夜のとばりを降ろし始める。しかし、主がやってくることはなかった。がっくりと肩を落としたマルチンは聖書を開くが、そこには次の言葉が記されていた。

「私の兄弟のもっとも小さい者ひとりにしてくれたことは、つまり私にしてくれたことである（マタイ伝25章）」

マルチンの顔に輝きが戻る。彼はこの聖句によって、約束通りキリストが来てくれたことを知るのである。

人は果たして愛する者を持たずに神に目覚められるものであろうか。信仰の有無を問わず、人は愛されることを通して愛することを身につけていく。人が真に人になるということは自分を超越する愛の対象を持つことに他ならない。「迷惑をかけない限り、人はどんな生き方をしてもよい」というのは法律や人権の分野の話であって、教育の世界に紛れ込ませてはならない言葉である。もしそれを生き方のひとつとして説く教

師がいたとしたら、教育者としては？がいくつも付く。

今日の新聞を見ると、15～39歳までの引きこもりは全国に推定54万人もいるという。言葉を換えれば「愛される」ことしか知らない人々である。自分の殻を破るのは愛するものを持つことなのであるが、今や結婚どころか恋愛すらおっくうだと考える若者がどんどん増加しているという（下記※参照）。また、堺市で起きた幼児（梶本樹李ちゃん・4歳）の遺棄事件は、人の心の最後の砦である親子の情愛すら疑わせる衝撃をもたらした。この鬼畜のような親たちも、きつとろくに愛されることなく育ってきたのであろう。

大人になりきれない大人と、親になることを拒否する若者、自由の名の下に他を背負うことを逃れようとする風潮—— 少子化は決して労働や福祉、税制などの分野だけではなく、人としての成熟にも大きな影を投げかけている。それは決して待機児童の解消、子供手当の増額、イクメン・イクボスの奨励などといういわば「外側」の用意だけでは解決できない問題である。

小さき者の一挙手一投足に目を細め、心配し、どきどきできること、これがどれだけすばらしいかを身を以て知ることによって、救われる人生は星の数ほどあるのではないか。「遊ばせてくれてありがとう」と言うべきは大人なのかもしれない。



※国立社会保障・人口問題研究所が2016年9月に発表  
18～34歳の未婚者で「交際している異性は無い」と  
答えた割合

【男性 69.8% 女性59.1%】

平成28年11月29日

## 第2回愛媛親学基礎講座のご案内

10月16日に続き、第2回を下記の要領にて開講致します。



### 開催要領

日時：平成29年3月4日（土）

会場：砥部町文化会館 3階 視聴覚室

受講料：12,000円（お支払いは当日会場にて）

学生、家族の2人目から10,000円

テキスト：「親学の教科書」（1,728円）

〆切り：2月25日（土）

共催：一般財団法人 親学推進協会

## プログラム

9：20～オリエンテーション

講座	テーマ	内 容	講 師
第1講座 9：30～ 11：00	「親学」とは何か	親学の意味・背景・必要性 や親学の三本柱について	明星大学特別教授 親学推進協会会長 高橋史朗先生
第2講座 11：10～ 12：30	子供の発達と 親の関わり方	脳科学・心理学の知見に基 づく子供の発達課題と親の 関わり方について	神戸女子短期大学教授 医学博士 平野直美先生
第3講座 13：30～ 14：50	親として大切なこと	主体変容、人間力、自己成 長のポイント。父性的・母 性的な関わりについて	親学推進協会理事 杉本哲也先生
第4講座 15：00～ 16：40	親子のコミュニケー ション	子供の心を受け止め、親の 心を伝える態度と表現法に ついて	杉本哲也先生

16：40 修了書交付・アンケート記入

## 第1回愛媛親学基礎講座の受講者の声

井上京子（小学校教諭・50代）

子どもに十分関われなかった私自身の子育てを反省しつつ、本講座を受けました。親として未熟な私ではありましたが、立派に育ったなあと思う二人の子どもを見ながら、子育てに何が必要だったのか思い返しながらか講座を受けました。子どもを産んだら親になる。しかし、どのように子どもを育てていけばいいかは試行錯誤の毎日でした。今、振り返って、「親学」はそのまま、自分自身を育てることだったのだと感じています。

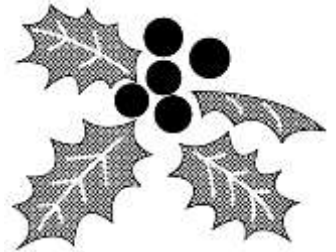
教師という仕事の中で、たくさん子ども、そして子どもの後ろにいる保護者の方と接しながら、家庭で大切に育てられた子どもたちが、学校という集団の中で大きく伸びていくことを感じます。「教育の道は、家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、世間の教えで実がなる」という、家庭心得は、心にすんなりとは入ってきませんでした。家庭と学校がそれぞれの役割を果たしつつ共に子どもを伸ばしていきたいと思えます。

娘と親学の講座を受けることができたことは、私の子育ての財産となりました。いつか、娘が親になるときを楽しみにしています。



井上 優（来春から国家公務員）

今回、親学基礎講座を受けて、親が果たすべき役割と、その重要性について深く学ぶことができました。同時に、人を育てる責任についても考えるきっかけとなりました。親として子どもを育てるのはまだ先だと思いますが、これから仕事をしていく中で、後輩や部下を育てなければならない場面は必ず出てくると思います。人を育てるうえで重要な知識については学ぶことができたので、これからこの知識を行動に移していきたいと思いました。中でも、「主体変容」という言葉は、普段から意識して生活していきたいと思いました。今までは、普段の生活や仕事の中でうまくいかないことがあると、周囲の状況をどう変えるかということにばかり考えがいきってしまい、自分が変わるという方向にはなかなか考えが及びませんでした。しかしこれからは、まず自分が変わるということ意識して行動していきたいと思うようになりました。そして、日々自分が成長し、同時に人も成長させられる人になりたいと思いました。



### 三浦夏南（こなん）（大学院生）

私は愛媛大学の大学院生ですが、最近結婚して夫婦となりました。戦後の乱れた教育の中で、両親や親戚の姿を見習っていれば、正しい親になることができるという時代ではなくなりました。親とはどういったものだろうと全く見当もつかない若い人も多いのではないのでしょうか。私は模範的な両親に恵まれ、今回の親学基礎講座を受ける中で、父の役割、母の役割を自分の両親がしっかりと弁えて果たしてくれていたのだと改めて感じました。しかし、周りを見渡せば父性も母性も弁えず、自己の権利ばかりを主張し合う親も多いのが現実です。如何なる親になれば良い子どもが育ち、美しい家庭を築けるか。その基準を与え、目標を与えてくれるのが、この親学基礎講座だと感じました。すでに親である人だけでなく、これから親になる人、これから夫婦になる人にもぴったりの講座だと思います。今回は受講させていただき誠にありがとうございました。



### 三浦 颯（そう）（愛媛大学 科目等履修生）

今回、親学基礎講座を受講しまして、一番印象に残ったことは、それぞれが天分を尽くすことでものごとが調和するという事です。父親には父親らしい生き方があり、母親には母親らしい生き方があるということ認識し、その分際というものを弁えることで、夫婦関係や家族関係が調和し、温かな家庭となっていくことを学びました。私は、すべてにおいて自由・平等という、所謂悪平等が蔓延している現代社会の中で、様々な場面において秩序が乱れていることを痛切に感じていました。自由・平等というと聞こえは良いのかもしれませんが、すべてにおいて自由と平等を要求し続けることは、返って無秩序を生み出しているのだと思います。今回の親学基礎講座を受講することで、改めて、各々が各々の立場を活かし、「らしく」生きていくことの大切さを感じることが出来ました。

## 藤崎栄子 （笑いヨガ講師・60代 高知市在住）

私たち世代が、あの昭和 20 年代から、力を合わせながら築いていた大家族、ご近所づきあい、貧しいながらも心豊かなあのころ…。秋になれば、山で柿や、ザクロなどを食べ、リンドウの花を摘み、大勢の友達と年の差なく遊べたあの時代。海に行けば、貝殻取り、海水浴、思い出は尽きません。



ですが、私たちの孫世代は環境が違います。自然と戯れる時間もぐんと減り、核家族で息の詰まる親子の姿が見えてくるようです。経済的な理由もあり、働かなくてはいけないお母さん方もいてとても大変だと思います。私たちグランドマザーは、何ができるのだろう？と思ったとき、親学基礎講座の文字が飛び込んできました。少しでもお手伝いできれば！そう思い受講させていただきました。

授業の内容が素晴らしかったです。脳科学のお話、とても説得力があり、新しい気付きも頂けました。そして、一番、主体変容！この言葉に心打たれました。自分が変われば見える世界が変わる。本当にそうですね。

またもっと学びたいと思いました。そして高知県の皆さんにももっと知ってもらえたらと思いました。

## 三好奈加子 （多機能型事務所 副施設長・50代）

自分自身に出産、子育ての経験がないので、親のあり方を学ぶという事に関して逃避気味だったなど改めて感じています。そしてもっと深く学び、子育ての経験ある無しに関わらず、大切な事はしっかり伝えていく必要があると思いました。

母性的関わり、父性的関わりを同時やらなければいけない家庭が多い中、叱るばかりの父性が全面に出ている光景をよく見ます。そんな時いつも、叱るばかりの母親のケアがなんとか出来ないものかと漠然ですが思っていました。叱られる子供のケアの前に、育てる方に元気で明るく夢や希望を持って欲しいと思っていた時にこの講座に出会いました。

親学との出会いは必然だと感じしております。さらに学び、子育ての方の心の負担を少しでも軽くして差し上げることができれば本望です。

私の仕事は、ハンディキャップを持った小1から高3までの児童達を放課後や長期休暇にお預かりし、コミュニケーションやITを使って将来に向けて出来る事をひとつでも増やすことです。ハンディキャップを抱えた子供たちの親御さんは、自らを責めているケースがとても多いのも事実です。



この学びで、親御さん達の自責の念を、主体変容の思考に変えるお手伝いをしたり、これからの若い方にアドバイスしたりしてお役に立てれば嬉しいです。

# ひの会

愛媛県師友会ひの会 三浦夏南

前回の「ひの会復興に至るまで」に続けて、その後のひの会の進展状況をご報告させていただきます。

ひの会は復興に向けての準備会として勉強会を毎月二回行うだけでなく、私塾設立に向けて家庭教師も始めております。

毎月二回、ひの会の会員の方のお宅をお訪ねして、お子様の年齢に応じて『論語』や『古事記』の素読、吉田松陰先生の士規七則の暗唱、歌唱、書道を指導させていただいております。

実業家の父親は、フェイスブックにその様子を下記のように投稿されています。

「うちの家族と近所の子供1名に家庭教師をしてもらいました。幼稚園の子供は士規七則を素読、音読指導をしてもらいました。翌日、幼稚園の子供が『凡そ生まれて人ならば、宜しく人の禽獣に異なる所以を知るべし』と暗唱していたら、大人も勉強しなくてはと思いますね。」「大人とお姉ちゃん達は古事記と論語の勉強。子曰く『異端を攻（おき）むるは、斯（こ）れ害のみ』と聖人の教えを学んでゆきます。」「勉強するだけでなく、心のありようも教えていただいております。うちの娘は心配性なところがあります。先日、苦手な算数のテストのときに、『絶対に出来る！』と自分に念じてやるとスラスラ解答できたそうです。人生にきっと良い影響を与えてくれると思います。」

吉田松陰先生は三歳から学問を始められ、山鹿素行先生は八歳、九歳には四書五経を読み終えていたそうですから、やはり本物の学問に早すぎるということはないのです。子どもは大人の信じた分だけ成長することができる。西洋流の安易な発達段階の知識に惑わされてはなりません。



人には無限の力がある。それなのにそれを発揮できないのは信じないからです。できると信じていれば、その通りの力を子どもは発揮することができるのです。幼い頃より古の聖賢の言葉で心を満たし、それが習慣になれば、自然と聖賢たちに近づいて行きます。シナの古典『中庸』には「天の命ずるこれを性と謂い、性に率うこれを道という。」とあります。人間の本性は天より与えられたものであり、その本来の自己に順うことこそ、天地の道理とともに生きることであると教えています。天より与えられた絶対善の本性を信ずること、ここから教育は始まると思います。

小学校の中学年・高学年の子どもさん達には『論語』と『古事記』の音読と簡単な講義をしています。『古事記』の神々の世界を学びながら、「その神々は今ここに生き

て我々とともにまします」ということを伝えています。自分たちが神州の民であり、万世一系の天皇様の臣下であるということを感じ、自分の人生に使命と誇りを持って生きて欲しいと願っております。



また、六年生の子に、人が見て、聞いて感じているこの世界は心の現れの世界であって、私達が思う通りに展開してくるということを伝えました。心で信ずるところのものが現れる世界であるから、心に良いことばかりを念じるようにすれば、自由にこの世界を動かすことができる。あなたの中には天照大神様の「ひ」が宿っており出来ないことはひとつもないと教えました。そうすると、算数のテストの時に難しい問題が出たそうですが、難しいと思わずにひたすら「できる、できる」と念ずると、その通り簡単に問題が解けたとのこと。このような小さな成功体験を積み重ね、内に宿る天照大神様の「ひ」の力を自覚し、人生の主人公になって行って欲しいと思います。

私の父はこのようなことを学問ではなく、直観的に知っている人でした。幼い時から父は「お前のことは子ども扱いしない。大人の話について来れるようになりなさい」と言っていました。その結果、私は一歳半には大人と会話ができ、祖父母を驚かせたそうです。一歳半と言えば科学的には一語文をいくつか話せば良いという時期ですが、大人の信仰次第でいくらでも伸びるのです。小学校、中学校のときには、「お前は勉強が出来て当然に育ててある。できないはずがない。九十点以下は取らないようにしなさい。」と教えられ、私はその通り、後に東大や国立大学の医学部に行った人達にも負けない点を取っていました。

これからも家庭教師の活動を益々広げて行きたいと思っております。お家にお子様、お孫様のいらっしゃる方は是非ともお声かけください。日本の未来は青少年の双肩にかかっています。自己の研鑽に日々励むと同時に、後輩を導き、切磋琢磨することは我々青年の使命であります。何卒よろしくお願い申し上げます。



### —愛媛県師友会ひの会 12月の勉強会のお知らせ—

【日時】 十二月九日（金） 19:00～21:00  
十二月十六日（金） 19:00～21:00

【場所】 松山市男女共同参画推進センター☆コムズ 三階 会議室1-2  
(住所：愛媛県松山市三番町6丁目4-20)

【内容】 論語・・・資料は当局でご用意させていただきます。『論語』（岩波文庫）をお持ちの方はご持参ください。

\*コムズ一階のホワイトボードには「尚友会」と掲載されています。

また、十二月十八日（日）には 醒庵忌もごございます。

愛媛県師友会ひの会 三浦夏南

【連絡先】 080-2981-1412

【メールアドレス】 milankonan501@yahoo.co.jp

# 西村眞悟先生の時事通信 12月5日号

## F・ルーズベルトという暗黒と北方領土

十二月四日の日曜日、東側に大阪城天守閣を望む会館で、大東亜戦争顕彰の集会が開かれ、渡辺利夫拓殖大学前総長が、戦後という空間のなかで、現在における「歴史認識問題」が何時、如何にして、出現したのか、また、出現させた者は誰か、について講演され、次のことを見事に実証された。

歴史認識問題は、一九四五年の終戦から三十五年間、存在しなかった。

その出現時期は、終戦から三十五年を経た一九八〇年代初頭のマスコミによる我が国の歴史教科書の検定において文部省が河北への日本軍の「侵略」を「進攻」と訂正させたとの誤報の時である。この「誤報」から歴史認識問題が生まれた。従って、それを出現させた者は、中共でも韓国でもなく日本人（マスコミ）であり、それを「問題」として公認したのは日本国政府（内閣）である。

以後、「従軍慰安婦」に関しても同じで、これを「問題」にしたのは日本人で、その問題を公認したのは日本国政府（内閣）である。

この集会は、例年、冒頭に「開戦の詔書」を奉読して始まり、聖寿万歳の三唱で締めくくられる。私は、渡辺利夫前総長の講演の前に挨拶を求められたので、北方領土に関して次の通り話した。

大東亜戦争は、冒頭に奉読した天皇の「開戦の詔書」によって、昭和十六年十二月八日に開始され、その戦闘を、昭和二十年八月十五日の天皇の国民に対するポツダム宣言受諾を伝える「終戦の詔書」と、帝国陸海軍に対する「積極侵攻作戦中止」の命令（大陸命・大海令）、さらに、翌十六日の参謀総長、軍令部総長、各軍司令官、各艦隊司令官、指揮下海陸全部隊に対する「自衛のためを除く戦闘行動即時停止」命令の伝達によって終結した。この天皇の詔書と陸海軍に対する命令によって大東亜戦争の戦闘行動の開始と終結は明確に画されている。

従って、明らかなことは、ロシア（ソ連）の南樺太侵攻（八月二十日）と千島最北端占守島侵攻（八月十九日）から始まる千島全島と北方領土占領は、大東亜戦争の戦闘停止後のことである。よって、ロシアによる南樺太と千島そして北方領土占拠は、ロシアが言うような「第二次世界大戦の結果」ではなく、「第二次世界大戦の戦闘終結後にロシアが一方的に略奪した結果」である。即ち、「火事」と「火事場泥棒」の区別を明確にしなければならないのであって、我が国は、北方領土のみならず南樺太と全千島の返還を、ロシアに要求する正当な法的立場にある。何故なら、その地域は、ロシア（ソ連）が火事場泥棒で奪った地域であるからだ。

しかるに、我が国政府は、このことを自覚せずにロシアに盲従して、北方領土を「第二次世界大戦の結果」としてロシアの領有に帰したものと前提に乗っかっている。





従って、ただ、ロシアに、援助と引き替えに領土返還をお願いするだけである。現在、外務大臣がモスクワに行っているが、モスクワでは、我が国がロシアに金を渡すことだけが確定し、あとは、十五日に山口県に来るプーチンを「すぎる」思いで迎えるだけの結果となるだろう。そして、そのプーチンは、如何にウラジーミルと親しげに呼んでも、決して北方領土を還さない。相手は、二年前にクリミアを奪取したプーチンなのだ。よって、今モスクワにいる外務大臣は、日露外相交渉を決裂させ、「全ては山口で決めよう」、と言い残して帰国すべきである。

ここで、ソ連の獄に十年以上繋がれて帰国した内村剛介氏の著書「ロシア無頼」の中の次の一節を記しておく。

「無理難題に処してたじろがず、手段をえらばない者が共産主義エリート・コースに乗る。それはいつでもどこでも変わらない・・・そして、このオルガナイザーは何ものまへでもたじろがないから、当然親友を裏切ることを屁とも思わない。オルガナイザーは裏切り者でなければならない。」

ウラジーミル・プーチンは、はやくも少年の頃、共産主義社会でのし上がるためには、**KGB**に入るしかないと思い定め、**KGB**将校そしてオルガナイザーとして「共産主義エリート・コースに乗って大統領にのし上がった者」だということを忘れてはならない。また、ロシアに関する昔からの申し送りを思い出さねばならない。「ロシア人は、約束を破るために結ぶ」

さて、本日五日、産経新聞朝刊は、一面で、ロシアが北方領土領有の有力な根拠としてきた「ヤルタ密約」（1945年2月11日、当事者F・D・ルーズベルト、W・チャーチル、スターリン）の有効性について、イギリス政府が、1946年2月9日に、米英ソ三カ国が「ヤルタ密約」を公表するに先立ち、疑念を示す公電を在外英国公館に「緊急かつ極秘」に一斉に送っていたことを明らかにした。これによって、ヤルタ密約の当事国であるアメリカ、イギリスそしてソ連のうち、アイゼンハワー政権が、1956年に「ヤルタ密約はF・ルーズベルト個人の文書であり、アメリカ政府の公式文書ではなく無効」との声明を発しているのに続き、イギリスも密約の有効性に疑念を示したことが明らかとなったことになる。これは、ソ連（ロシア）が北方領土領有の根拠とするヤルタ密約の正当性が崩壊していることを示すものであり、そのソ連を引き継いだロシアの、北方領土不法占拠つまり侵略を明確にするものである。



大東亜戦争を取り上げた本稿の最後に、このことを解明しなければ、大東亜戦争の開戦も北方領土問題も、その全容を捉えたことにはならないという「暗黒」を指摘しておきたい。

それは、ヤルタ密約の当事者でありF・D・Rと略称で呼ばれるアメリカの「F・ルーズベルト大統領という暗黒」だ。前大統領フーバーは、彼を「狂人」と呼んだ。今や、大東亜戦争の引き金を引いたのは、F・D・Rであることは明らかになっている。しかし、そのF・D・Rの謀略の全容は、未だ暗黒の中にある。

そこで、先のアメリカ大統領選挙の末期において、FBI が、ヒラリー・クリントン候補のアメリカ国務長官時代の個人メールを使った通信の解明に再び乗り出したことに密かに期待したのだ。何故なら、アメリカ政治の一貫した伝統は、暗黒の中に隠れている謀略であり、メールの解明によって、国務長官ヒラリー・クリントンのどす黒く狡猾な謀略が明らかになれば、アメリカ国民と日本国民に大惨害をもたらした F・

D・R の謀略解明への機運が高まる可能性があるかと予測したからだ。

しかし、FBI は、捜査を中止した。よって、今は、トランプ氏が大統領に就任してから、アメリカの国益と中東の現状に重大な影響を与えたヒラリー・クリントンの謀略解明に向かうことに期待して見守りたい。



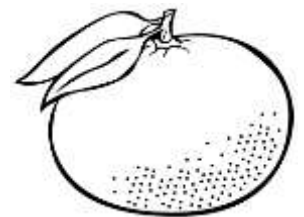
次に、F・D・R の頭が、フーバーの言うように狂っていたのではないかと思わせるエピソードを記しておく。彼の誇りは、母方が十九世紀の半ばからシナの広州

で阿片を売って大儲をし、上海に進出して揚子江の水運を独占したデラノ家であったことだった。そして幼い頃から、シナの高価な書画骨董工芸に親しんでいたことが自慢の種であった。

1943年（昭和18年）11月、彼がカイロでチャーチルとスターリンに会うとき、宿舎で部下にいつもの話を続けた。それは広州の母の一族デラノ家に始まり、感傷にひたりながら、シナへの愛情を延々と語るものだった。そして、日本に対抗してシナに味方する自分の強い感情を語り続け、シナを大国化する話をした。

また彼は、会談に加えようとカイロに呼び寄せた蒋介石に、沖縄を領土にしないかと問いかけ、さらに英国の香港、フランス領インドシナが欲しいかと尋ねた。このような男が、我が国に戦争を仕掛けていたのだ。彼は、少年期の体験から浮かび上がる妄想に支配されて現実の国際政治を牛耳って、アジアにおけるシナ大国化の為に、我が国を戦争に追い込んでいた。F・ルーズベルトは、カイロで蒋介石に、沖縄が欲しいか、仏領インドシナをやろうか、と尋ねていた。では、ヤルタでスターリンがヨダレを垂らしていた樺太、千島そして北方領土をやろうかと尋ねていても不思議ではない。

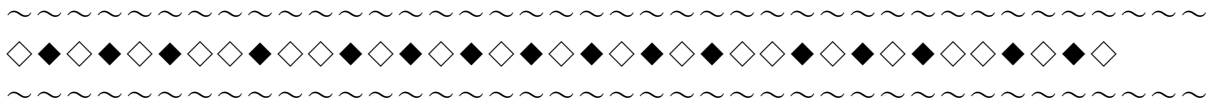
彼は、諸国民の領土を、自分の思い通りに処理できると妄想していたのか。一体、大西洋憲章という偽善文書の裏にあるF・ルーズベルトの戦争目的とは何だったのか。彼はヒトラー以上の妄想に支配された狂人だったと思わざるを得ない。



## 良書ご紹介

江崎道朗著「マスコミが報じないトランプ台頭の秘密」（青林堂）

この1冊のお陰で、米大統領選を興味と希望を持って見守りました。また、めざす会のような草の根保守の活動も、このまま続けていくことが大切なんだ！と励まされました。我れ分限者ならば、なでしこ通信に同封させていただきたい1冊です。（青井）



「宮崎正弘の国際ニュース・早読み」 通算第5124号  
平成28年（2016）12月8日（木曜日）

トランプ・蔡英文の電話会談の段取りを組んだのはボブ・ドールだった  
準備の取り組みを本格化させていたのはヘリテージ財団のフルナー理事長  
\*\*\*\*\*

世界を揺らした台湾総統・蔡英文と次期米国大統領ドナルド・トランプとの電話会談は、舞台裏で台湾政府のロビイストでもあるボブ・ドールが動いていたとニューヨークタイムズが報じた（12月7日）。

ボブ・ドール？

共和党上院の有力者で、1996年の共和党大統領候補でもあった。夫人のエリザベスは共和党の副大統領候補に挙げたこともある。

93歳の老齢を押して、ワシントンの法律事務所アルストン&バードに所属する。同事務所は台湾ロビイとして、今年度上半期（3月―9月）に台湾政府から14万ドルを得ている。

もうひとつ有力な台湾ロビイは前下院議員のリチャード・ゲッパート（92年の共和党大統領予備選にでた）。後者は25万ドルの報酬を報告している。

ドールは1979年の台湾断交というカーター政権の拙劣外交に立腹し、台湾関係法を成立させた時の上院の有力者である。以後、一貫して台湾のために戦った。トランプ選挙では正式候補になる前からトランプ支援の列にいた。

トランプは会談を「ひとつの中国」を認める米国の外交基本に反すると問われて、「何十億ドルの米国兵器を購入する国のトップと接触を持つことは重要だ」と答えて、すっかり北京が慌てた。

蔡トランプ電話会談の事前準備を現地でお膳立てしてきたのはヘリテージ財団のフルナー理事長で、かれは10月にも訪台し、蔡総統に面会している。

▼大統領補佐官同士、フリントとライスが会談

さてトランプの政権引き継ぎチームは、まだ国務長官が決まらないものの適材適所で準備に余念が無く、ホワイトハウスと政権引き継ぎの打ち合わせを次々となしている。

12月7日、大統領安全保障担当官となったミカエル・フリントは、オバマ政権のスーザン・ライス補佐官と面談し、ブリーフィングを受ける。

フリントの指名に関して民主党陣営では「不適切」とする声がつよく、その論拠は「フ

リンはイスラムへの敵愾心が強い上、陰謀論を信じており、適切なアドバイスが出来るのか」とする声だ。

「もし上院の指名を必要とするポストだったならフリン指名を拒否するが、ともかくバックグラウンドを問題視している」と発言しているのは民主党のティム・ケイン（バージニア州、下院議員）らである。

しかし、同じことが四年前に現在のライス補佐官も言われた。オバマは彼女をヒラリーの後釜の国務長官とする腹つもりだったが、能力的に問題がおおく、指名公聴会で賛成を得られないとわかって断念し、上院公聴会の承諾の必要のない大統領候補補佐官とした経緯がある。

スーザン・ライスは親中派であり、キッシンジャーは、フリンの補佐役に弟子のマクファーランドを「副補佐官」として送り込むことに成功している。彼女はニクソン、フォード、レーガン政権につかえた古株で、やはり親中派である。

フリンとマクファーランド女史は、IS退治の徹底で、共通している。

## 松山市の姉妹都市フライブルク市が慰安婦像設置を取り止め — 多数の日本人の抗議メールと松山市長の書簡で断念 —

### ○顛末

ドイツのフライブルク市は1989年（平成元年）4月以来27年の長きにわたって松山市の姉妹都市です。そのフライブルク市で慰安婦像（韓国では「平和の少女像」という）を設置する計画が進められていました。韓国水原市の市長が、最近姉妹都市関係を結んだ記念としてフライブルク市長ザロモン氏に「平和の少女像をプレゼントする」ことを提案し、その提案をザロモン市長が受け入れ、国連の世界人権宣言記念日の12月10日に設置記念式典を行うことになっていたのです。

9月上旬にこのことがネットで報じられると、フライブルク市に日本人の抗議メールが殺到し、さらに松山市の野志市長からも国家間の政治問題を都市間の交流に持ち込むべきではないとの趣旨の抗議書簡が届くに及び、ザロモン市長は設置を断念しました。韓国人はヨーロッパに初めて像を設置できると一時は大喜びしましたが、結局は糠喜びに終わりました。

### ○フライブルク市長ザロモン氏が明かした日本関係者の動き

ザロモン市長の発言：「ソウルの日本大使館を通して情報は東京に届き、そこからベルリンに伝達され日本総領事が動きました。総領事は非常に憤慨し日独関係の損傷を気づかっていました。」

意外なことに、外務省が素早く動きました。ザロモン市長は松山市長からの書簡の内容についても言及しています。

ザロモン市長の発言：「今朝、私は松山市長に電話をし、我々は韓国水原市からのプレゼントを受け取らない旨を伝えました。松山市長からは事前に、もし我々が慰安婦像を設置すればフライブルク市との都市提携を解消するとの表明がありました。そして私は日本総領事ともこのことを話し感謝されました。」

ニュースによれば、松山市の担当者は「交流に支障が出る」と婉曲に述べていましたが、市長の書簡では「都市提携の解消」という強い言葉が用いられています。

なお、松山市は市長の書簡（編集註：\*下欄に掲載）を公表していませんが、閲覧の要求があれば個

別に応じるとのことです。関心のある方は情報公開を請求されては如何でしょうか。また、松山市議会の動きは報じられませんでした。設置反対表明（編集註：\*\*下欄に掲載）の準備は進められていたようです。ただし、事件の決着が早過ぎたために幻になってしまいました

【注】ザロモン市長の発言はフライブルクのバーディッシュ新聞（後出）による。

## ○米加豪ではすでに慰安婦像が設置されている

米国、カナダ、オーストラリアでは、韓国系市民の活動の結果、すでにいくつかの市に慰安婦像が設置されています。この像の設置は、一口に言えば、日本に対する歴史戦の一環であり、日本人の名誉を汚し見下して屈辱を与え、国際的評判を落とすとともに、一方で韓国政府が日本政府の謝罪を引き出して補償金を獲得する交渉を有利に運べるよう支援する企てです。この作戦が功を奏してか、昨年末に日韓合意が成立し、日本政府は見舞金 10 億円を提供しました。ところが、韓国は目的を達成したはずなのに、水原市長はさらに像を設置しようとしたのです。その意図は、合意を無効化して歴史戦を続けることなのかも知れません。

## ○福井市は 2 年前姉妹都市フラートン市の慰安婦像設置を阻止した

姉妹都市の慰安婦像設置を阻止したのは、松山市が初めてではありません。約 2 年前、米国フラートン市で慰安婦像を設置する動きがありましたが、福井市などの抗議で立ち消えになりました。今度も福井市は素早く動きました。水原市は福井市の友好都市なのです。福井市は、水原市がフライブルク市に像の設置を提案した事実を確認した後、日韓合意違反であるとして 10 月に予定されていた市長の訪問を取り止めました。合意には「今後、国連等国際社会において、本問題について互いに非難・批判することは控える」という一文があります。日韓合意に批判的な人は少なくありませんが、役立つこともあるようです。なお、「姉妹」は上下関係を表すとして嫌う国があって、その場合には「友好都市」という言葉を用いるようです（メディアではフライブルク市は水原市の姉妹都市としています）。ネット情報によれば、韓国の約 50 自治体が友好都市（姉妹都市）に慰安婦像の設置を画策しているとのこと。日本の地方都市は姉妹都市の動きに注意しなければなりません。

## ○ドイツ人がどう受け止めたか、それが気になる

韓国人のことはさて置き、ドイツ人はこの度の騒動をどのように受け止めたのでしょうか。それとも水原市長の言を疑うことなく無邪気に同調したのでしょうか。気になるところです。この度は像の設置は阻止されましたが、また設置の動きが出てくるかもしれませんから。

## ○ザロモン氏がドイツ人新聞記者のインタビューに応じた

フライブルクのバーディッシュ新聞（Bardische Zeitung）の記者がザロモン氏にインタビューし、記事が 9 月 24 日の新聞に掲載されました。この記事をドイツ在住の日本人が日本語に訳し、保守系市民団体「なでしこアクション」のウェブサイトのブログに投稿しました。以下にザロモン市長の発言を追っていきます。なお、その日本語訳は難解な箇所が多くあるので、引用は原文通りではないことをご承知ください。

## ○ザロモン市長は国際的な大混乱を初めて経験

記者の質問：「今までの任期中にこのような国際的な反響を含む大混乱を経験しましたか？」

ザロモン市長の返答：「まったくありません。私たちは、まったく無実無罪の状態に在ったが、気がついたら大なるジレンマに陥ってしまっていた。（オリジナルのドイツ語表現は、“くるぶしまで糞溜めに浸かっている“という品の無い言葉）」

## ○設置目的は「世界平和や女性の人権保護」だと言いくるめられた

記者の質問：「なぜアジアの 2 国間の戦争時の残虐行為を思い出させる記念碑をフライブルクに立た

せる必要があるのか？」

ザロモン市長の返答：「我々が水原市で話し合ったことは、現在の日本の政治に汚名を着せることではなく、同様に、ドイツの痛みを伴うプロセスと歴史の暗い章を回避することでした。戦争中の性暴力は日本だけで作り出されたものではないと私たち（注：ドイツ人のことと思われる）は考えています。考えてみてください。旧ドイツ軍が何をしたかを、20年前に旧ユーゴスラビアで何が起こったかを。この彫像は、模範的、例示的であるべきなのです。」

ザロモン市長は、「平和の少女像」は普遍的価値を表現したものだと言葉巧みに言いくるめられたのでしょう。松山市がフライブルク市に計画の確認をした際、設置の目的は「世界平和や女性の人権保護」と回答があったとのこと（愛媛新聞）。なお、ザロモン氏は像に付随する碑に言及していませんが、碑文を読めば、像が「慰安婦像」であることが分かったはずですが。

質問の中で記者は「2 国間の戦争時の残虐行為」と言っていますが、韓国と日本が戦争したと誤解しています。

## ○ザロモン市長の誤解

「戦争には性暴力がつきものだ」という見方は、一般論としては間違っていないでしょう。しかし、ザロモン氏が「戦争中の性暴力は日本だけではない」と言うとき、旧日本軍慰安婦を念頭に置いているとすれば、それは間違っています。なぜなら、慰安婦は募集で集めた高収入の売春婦ですから、慰安婦制度には基本的に暴力性はありません。また、旧日本軍が慰安所を設置した理由の一つは、住民に対する兵士の性暴力を防ぐことでした。

ザロモン市長は常識と広い視野を持つ方の方ですが、上記の誤解のゆえに日本人が憤慨する理由をよく理解できていません。日本人が怒る真の理由は韓国人が史実を曲げて被害者を装うことですが、ザロモン氏は「日本政府が謝罪し補償金を提供している」のに韓国人が嫌がらせを続けるためだ（日韓合意違反）と思っています。無理ありません。総領事や松山市長はおそらくそう説明したでしょうから。

## ○ザロモン氏は騙されたと知って愕然とした

記者の質問：「振り返って見て、あなたは無知、無邪気だったと言えますか？」

ザロモン市長の返答：「もし我々が問題を感じ取っていたなら、この事件を調べ理解したはずですが。そして直ぐに紛争の種となるとの考えに行き着いたはずですが。私は単に姉妹都市締結に際して水原市から贈られたプレゼントと理解しておりました。しかし、それはより複雑でした。水原市長は市民主導の寄付により調達された資金でこの彫像を賄ない、そしてその意義は、この彫像を世界中に設置し日本に外交的圧力を加えることにありました。私がこれを知った時、私は悪用されたと感じました。」

## ○ドイツの暗い過去

第二次世界大戦中、ナチス・ドイツはヨーロッパ各地にドイツ軍将兵用売春宿を設け、近隣の女性を拉致して慰安婦にしました。強制労働収容所では、強姦や利益誘導による強要が頻発しました。「強制連行」や「性奴隷」という言葉はナチスのためにあると言ってもよいくらいです。ザロモン氏がインタビューのなかで言及した「ドイツの暗い章（過去）」とはこのことです。しかし、この悪行は、ユダヤ人大殺戮という巨悪の陰に隠れて追及を免れてきました。慰安婦像を設置すれば、それを契機にこの暗い過去が白日の下に晒され、ドイツ人は再び惨めな思いをします。水原市長は言わばタブーに触れたのです。日本からの多数の抗議メールは、むしろ救いのメールだったと言えます。それゆえ、今後ドイツに慰安婦像が設置される可能性はないと思われます。

## ○韓国は性暴力大国である

ドイツは戦時性暴力大国でしたが、韓国も同じです。ベトナム戦に参戦した韓国軍の虐殺・強姦ぶりは凄まじく、その結果、ライダイハンと呼ばれる混血児が多数生まれました。数は定かではありませんが、約3万人にも上るといふ説さえあるそうです（注：Wikipediaによる）。また、ベトナムには慰安所も設

置されていました。それから、フィリピンにコピノと呼ばれる子供たちが多数います。これは、英語学習のためにフィリピンに留学した韓国人が、フィリピンに残した混血児です。Wikipediaによれば、2014年時点で3万人という推計があるとのこと。

ドイツと韓国という二大性暴力大国が結託して、売春婦を軍慰安婦に使った廉で日本を非難する事態は、とんでもない茶番です。もし、それが現実になれば、非難の矛先はいずれ必ずブーメランのように両国に向かうはず。

## ○バーディッシュ新聞の解説

「第二次世界大戦中日本軍は主に韓国の少女や女性に強制売春を強いた。韓国は 1945 年まで日本の植民地であった。80 年代からかつての「慰安婦」が謝罪と補償を要求しはじめたことで、日本政府は苦境に立たされていた。昨年 12 月に日本と韓国の間合意があり、日本は謝罪を意図して 800 万ユーロの資金を提供。しかし韓国の世論は契約不十分として拒否。日本では逆に余りにも多額と多くの人に考えられている。従って紛争は今もくすぶり続けている。ソウルの日本大使館の前にブロンズの慰安婦少女像があり、米国、カナダ、オーストラリアにはこの慰安婦像のレプリカがあるが、ヨーロッパにはまだない。」

## ○「解説」の誤りを正す

### ① 「主に韓国の少女や女性に強制売春」？

記者は「主に韓国の少女や女性に強制売春」をさせたと誤解しています。「韓国は日本の植民地」だったから、さもあらん、というわけで、韓国は被害者で日本は加害者という構図は分かりやすいのです。そのうえ、日本が謝罪し金を出したとなれば、その構図は決定的です。この誤解は正さなければなりません。慰安婦は「高収入の売春婦」であり、その大半は日本人なのだ。それから、韓国は被害者顔をするのが上手なので、事情に不案内な人は日本が加害者だと思いがちです。とても難しいことですが、韓国人はしばしば史実を曲げることを知ってもらう努力が必要です。なお、後述しますが、日韓合意に際して日本政府は謝罪していませんし、提供した 10 億円は賠償金ではありません。

### ② 朝鮮は日本の植民地ではなかった

かつて欧米白人国は植民地において住民を奴隷状態に置き搾取しました。現在でも、ドイツ人が「韓国は日本の植民地だった」と聞けば、搾取の対象としての植民地を想像するのではないのでしょうか。韓国は日帝 36 年の苛酷な植民地支配と叫んでいますが、それは事実ではありません。日本は朝鮮を併合したのであって、搾取の対象としての植民地にしたわけではありません。朝鮮人は日本国民として基本的に日本人と同じ法的権利を与えられました。また、当時の朝鮮半島は未開の地でしたから、国民の税金を注ぎ込んで発展させたのです。インフラを整備し、治山治水を行い、社会制度を近代化し、教育を普及させ、衛生状態を改善しました。つまり、善政を敷いたのです。

朝鮮半島の経営は赤字だったと言われています。搾取されていたのは、むしろ日本人でした。1965 年の日韓国交樹立の際、日本は補償金を払っていません。互いに補償を要求し合えば、補償する立場だったのは韓国だったからです。ところが、理由は定かではありませんが、日本は莫大な経済協力金を提供しました。その金額に比べれば、今度の日韓合意に従って提供した 10 億円は雀の涙です。韓国の補償請求権はこの時消滅していますから、そもそも慰安婦補償問題は存在しないのです。

日本のメディアは「植民地支配」という言葉を安易に使いますが、それは止めるべきです。国民も同様です。

### ③ 日韓合意に「謝罪」という言葉はなく、拠出 10 億円は賠償ではない

日韓合意の内容は日韓両国外相が口頭で発表しただけで、文書化されていません。しかし、報道記録は存在します。その記録には、「謝罪」という言葉は見当たらず、代わりに「お詫び」という言葉が使われています。英語の辞書を引くと、どちらも apology で違いはありませんが、日本語では「罪」という文字が有るか無いかは大違いです。この観点に着目すると、日本政府が「お詫び」を選んだということは、政治状況の打開のために譲歩して元慰安婦に対して人道的な意味の「お詫び」はするが、法的な「罪」は認めないという立場を譲らなかつたのだと推察されます。

「10億円は賠償ではないか」という記者の質問に対して、岸田外相は「元慰安婦を支援する共同事業のために拠出するのだから、賠償ではない」と答えています。「謝罪」していないのですから、賠償するわけがありません。

前述のように、韓国の補償請求権は1965年に消滅していますから、そもそも慰安婦問題は存在しません。1993年頃、日本政府は慰安婦強制連行を立証する資料を探しましたが、発見できませんでした。朝日新聞は慰安婦狩りをしたという吉田清治の告白を国の内外に宣伝し続けましたが、2014年にとうとう誤報であったことを認め、「謝罪」しました。一方、河野談話で強制連行を認めたのではないかと主張する人々があります。確かに河野談話は総論では強制連行があったことを認めています。しかし、朝鮮半島で強制連行があったとは述べていません。ですから、そもそも日本は韓国に「謝罪」するいわれはありません。もちろん、韓国に金を渡す理由はありません。「解説」には「日本では800万ユーロ（10億円）は余りに多額だと考えている」と説明されていますが、問題の核心は金額の多寡より拠出自体なのだということが抜けています。

#### ④韓国人が日韓合意に反対する本当の理由

「解説」には、「韓国の世論は契約不十分として拒否」と書かれています。「契約不十分」とはどういう意味でしょうか。謝罪がない、金額が少ない、のでしょうか。しかし、老い先短い元慰安婦にとって「謝罪」がそんなに重要でしょうか。また、1千万円にも上る個人への配分額はとても少額とは言えますまい。とすれば、韓国人はせめてもう1桁あるいは2桁上の金を得たかったのではないのでしょうか。10億円では費やした多大な労力に見合いません。それから、他に隠れた理由があります。既述のように、韓国人が仕掛ける歴史戦は、日本人を見下して優越感を味わうためです。合意を受け入れて、歴史戦の材料を手放すわけにはいかないのです。（注：例えば、ノーベル賞受賞者発表の時期になると韓国人は憂鬱になります。また、「オリジナル」は韓国人の劣等感の裏返しです。）

最後に、本会会誌「なでしこ通信」の第60号に、本会が国連人権理事会慰安婦問題セッションへ提出した意見書（英文）の日本語訳が紹介されています。この意見書に慰安婦問題が簡潔に説明されています（編集註：めざす会ホームページの会報でご覧下さい。）。

## 【編集註\*】松山市長 → フライブルク市長

フライブルク市長

ディーター・ザロモン 様

貴台におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび貴市に姉妹都市である韓国・水原市からの寄贈により、「少女像」がシュタットガルテン内へ、今年12月10日に設置されるとの情報を得ました。

貴市における像設置の趣旨は、「世界平和や女性の権利保護、性犯罪撲滅の啓発」とのことでありました。

しかし、韓国メディアでは、水原市の建立推進委員会が貴市に「少女像」を贈る目的は、「歴史歪曲により、慰安婦被害を受けた韓国の女性たちを陵辱する日本政府を外交的に圧迫し、歴史を正しく構築する契機になることを願うもの」と報じています。

貴台もご承知と存じますが、日本政府は、慰安婦問題が多数の女性の名誉と尊厳を傷つけた問題であると認識しており、これまで官房長官談話や総理の手紙の発出等で、元慰安婦の方々に対し、心からのおわびを反省の気持ちで申し上げます。

また、昨年12月、日韓両政府は、多大な外交努力の末に慰安婦問題が最終的かつ不可逆的に解決することを合意しました。この合意は、韓国政府が設立した財団に、日本政府が10億円を拠出することにより同問題を解決しようとするものであり、貴国連邦政府のみならず米国政府や国連事務総長を始め、広く国際社会からも評価されています。



日韓両国が、この合意を着実に進めている中で、貴市のこのたびの決定は本市としても極めて残念なことであり、多くの日本国民からも設置に強く反対し、中止を求める声が本市に寄せられています。

私は、これらのことを貴台が十分にご理解の上で、設置を決められたとは到底思えません。

姉妹都市である松山市として、このたびの「少女像」の設置に対して反対の意を表し、速やかに取り止めるよう要請します。

本市としましては、両市の変わらぬ友好関係が末永く続くことを願っています。

2016年9月21日

松山市長 野 志 克 仁

## 【編集註\*\*】松山市議会 幻の意見書 日本政府に対し慰安婦像をフライブルク市に設置しないよう要求することを求める意見書案

本市は、平成元年フライブルク市と姉妹都市提携を調印して以来、本市からは、松山代表団や松山市経済交流友好促進代表団等の市民団体がフライブルク市を訪問し、フライブルク市からは、フライブルク代表団や市民親善使節団が来松するなど、27年にわたり友好交流を行ってきた。また、近年では、「まつやまRe・再来館」、「都市環境学習センター」とフライブルク市「エコステーション」の運営NPO間によるエコフレンドシップ協定を締結するなど、環境学習においても交流を行っている状況である。

そのような中で、平成28年9月8日産経新聞の記事において、韓国京畿道・水原市廉泰英市長が今年5月、フライブルク市長に慰安婦像の設置を呼びかけ、国連の世界人権宣言の記念日に当たる12月10日にフライブルク市中心部に両市共同で設置され記念式典も行われる予定との報道がなされた。

しかしながら、平成27年12月28日の日韓外相会談後の共同記者発表では、日本政府、韓国政府はともに「今後、国連等国際社会において、本問題について互いに非難・批判することは控える」こと及び韓国政府は、「日本政府が在韓国日本大使館前の少女像に対し、公館の安寧・威厳の維持の観点から懸念していることを認知し、韓国政府としても、可能な対応方向について関連団体との協議を行う等を通じて、適切に解決されるよう努力する」こと等を表明している。また、この慰安婦問題に関する日韓合意については、今年9月の安倍総理大臣と朴韓国大統領との間で行われた日韓首脳会談においても、安倍総理大臣は「合意に基づく10億円の支出を完了した旨を述べた上で、慰安婦像の問題を含め、引き続き合意の着実な実施に向けた努力を行うよう韓国側に強く求めた」のに対し、朴韓国大統領からは、「日韓合意を着実に実施していくことが重要である」旨の発言があり、両首脳は合意を引き続き誠実に実施していくことで一致している。

なお、日本政府は、慰安婦問題に関して、平成3年12月から平成5年8月まで関係資料の調査及び関係者からの聞き取りを行い、これらを全体として判断した結果、平成5年8月4日の調査結果の発表までに政府が発見した資料の中には、軍や官憲によるいわゆる強制連行を直接示すような記述は見当たらなかったものである。

よって、韓国京畿道・水原市長がフライブルク市長へ慰安婦像の設置を呼びかけたことは、前述した日韓合意と異なる動きであること、また、慰安婦像を設置することは、事実と異なる歴史認識が国際社会へ拡散するなど我が国をおとしめる行為となることから、日本政府に対し、フライブルク市が同合意の主旨を踏まえ慰安婦像を設置しないよう働きかけることを要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

提出先 衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
外務大臣

## 救う会愛媛

「日本死ね」【調査会 NEWS2346】(28.12.3)

荒木和博

「保育所落ちた日本死ね」というのが流行語大賞を授賞したそうです。正直なところ保育所落ちたくらいで「日本死ね」なんぞというのはどんなアホかと思いますし、それを流行語大賞に選ぶ皆さんも皆さんだし喜んで授賞式に出てくる国会議員も国会議員です。皆自分の国に何を言っているんだと、正直思います。

しかし、拉致被害者から「救い出してくれない日本死ね」言われたらどうするでしょう。「いや憲法の制約があって」とか「拉致認定されていなかったのだから」とか答えるのでしょうか。

拉致被害者の皆さんが今どう思っているかは、もちろん分かりませんが、何もしてこなかった祖国に対して怒りを持っていても不思議ではありません。ひょっとしたらその怒りで対日工作に協力した人もいるかも知れません。

「保育所落ちた日本死ね」くらいならジョークでも済みます。「救い出してくれない日本死ね」だったら私たちはどう答えたら良いのでしょうか。

**11月25日に救う会愛媛(会長・中矢民三郎氏)の拡大役員会が開催されました。そこで以下の通り28年度下半期の活動が確認されました。**

○街頭活動 日程：毎月第2土曜日 場所：松山市駅前(いよてつ高島屋前)  
時間：13時～14時  
\*12月、1月、2月は別のイベントのため休止。

○北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日～16日)強調タイアップ行事  
啓発パレード  
日程：12月10(土)出発式：15時10分 坊ちゃん広場  
行程：坊ちゃん広場→銀天街→大街道→一番町口  
解散：16時30分

○拉致問題啓発コーナーの設置 12月12日(月)～16日(金)

場所：県庁第一別館 ロビー

内容：本県特定失踪者パネル及び「拉致問題啓発ポスター」の設置  
拉致被害者ご家族ビデオメッセージ、DVD の上映ほか

○ 拉致問題を考える研修会 12月14日（水） 15：00～16：45

会場：県庁第2別館6階大会議室

内容：講演 内閣官房拉致問題対策本部事務局

総務・拉致被害者等支援室長 足立 雅英氏

「北朝鮮による日本人拉致問題の解決に向けて」

講演 北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会

会長 西岡 力氏

「新たな段階に入った拉致問題」

～すべての被害者を救出するために～

○ 椿祭り 拉致問題啓発活動

日程：平成28年2月3日（金）～5日（日）

場所：椿神社境内

目的：拉致被害者救出運動の県民へのアピール・

ブ  
0円以上募金の  
活動・活動資金対策

ルーバッジの普及頒布（50  
方にバッジ1個）と署名活



めざす会の担当は、椿祭りの最終日、

## 2月5日（日）12:00-14:00

でございます。みなさまのご協力をお願い申し上げます。

### ◆◆◆ 事務局から ◆◆◆



★10月28日に「土井田先生その顛末を語る！」を開催、ドイツのフライブルグ市が慰安婦像設置を拒否するに至った経緯をめざす会関係者ら10名がお聞きしました。新聞記事からは伺い知れないせめぎ合いなどお話下さいました。

★愛媛親学基礎講座の受講料は第1回より高くなっております。先生方の交通費や第1講座の先生の宿泊費などの関係で、東京・大阪と同じ受講料は無理がありました。学生やご家族の割引も先回ほどではないこと、ご理解下さいませ。高橋史朗先生の講座は公開講座とさせていただきます。

★11月25日の救う会拡大役員会でのこと。愛媛県の活動はマンネリ化してないか？県によっては横田めぐみさんの誕生日に啓発活動をしているところがある。愛媛



でも広く県民にアピールする行事はどうであろうか、というご意見が某県議からございました。実は、4月29日に拉致議連による山口采希さんのライブコンサートが坊ちゃん広場でございました。愛媛大学や松山大学のコーラスや吹奏楽のグループが参加。大学生達は拉致問題に初めて関心を持ったという感想を述べておられました。素晴らしいイベントでした。山口采希さんは、12月23日（金）の天皇陛下のお誕生日をお祝いする集いのゲストです。奉祝コンサートが午後1時半からコミセンで開催されます。

★12月7日（水）に建国記念の日奉祝愛媛県実行委員会総会が開催されました。この国民の祝日は政府主催で祝うべきではないかという質問に対して、加戸守行顧問が以下のように応えられました。建国記念日を政府主催で、と主張をするには、国民の祝日すべてを政府主催で祝うのか、原爆慰霊祭は国民の祝日ではないから国家行事としなくてよいのか、そうしたことをよく考えておく必要がある。ちなみに、加戸氏を「元知事」ではなく「前知事」とお呼びすべきではないかという質問には、現知事が2期目に入った時点で、「前」から「元」に変わるのが慣例と加戸・元知事がお述べになりました。

★エンブリオ愛媛の藤本順子さんからめざす会の皆様に差し上げる会報のバックナンバーをお預かりしておりました。ちょっと遅くなりましたが、今回同封させていただきました。エンブリオは熊本の赤ちゃんポストの運営に関わっておられます。ちなみに新刊「はい。赤ちゃん相談室、田尻です。」（ミネルヴァ書房）は赤ちゃんポストの現場で活動されている田尻由貴子さんによるもの。本書によれば、「ドイツ連邦共和国基本法の第一条に『人間の尊厳は不可侵である。これを尊重することは、すべての国家権力の義務である』と謳われ、『命に対する権利は胎児にも及ぶ』と胎児の尊厳が明記されている」そうです。日本国憲法には、ご存じのように「胎児の人権」に関する条文はありません。



★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は現在、2000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。

みなさまにおかれましてはよき新年をお迎えになられますようお祈り申し上げます。来年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子 〒791-0221 東温市上村甲218

電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903

<http://www.mezasukai.com/> メール [michikoaoi25@yahoo.co.jp](mailto:michikoaoi25@yahoo.co.jp)

.....